

## 平成 25 年度障害者スポーツ文化センター横浜ラポール事業報告

市内唯一の障害者スポーツ・文化・レクリエーション振興の中核拠点施設として、地域や利用者の様々な状況に即した事業を行いました。運営の基本理念を「リハビリテーションの向上」、「豊かな人生への支援」、「共生社会実現への取り組み」と定め、リハビリテーション・スポーツ及び文化事業を核とした各種プログラムの展開、多様な地域資源（横浜市体育協会、各種競技団体等）との連携に基づいた事業を推進しました。

平成 4 年 9 月の開館から 21 年目で、延べ 800 万人の利用者を 5 月に迎えることができました。このことはラポールが障害者の中核拠点施設として浸透されていることと思われま

す。指定管理の中間年に行われた横浜市の指定管理者としての第三者評価では、133.6/153 点という好評価を得られましたが、次期指定管理に向け、更なる好評価を得られるよう努めます。

今年度の開館日数は 345 日で、施設利用者数は延べ 444,254 人（昨年度延べ 450,622 人）と昨年度に比べ微減ですが、1 日平均約 1,288 名の利用がありました。

### 1 施設運営事業

#### (1) 運営方針

障害者等のグループ（団体）または個人による自主的なスポーツ・文化・レクリエーション活動を支援するため、各種のスポーツ・文化施設の貸出を行いました。

利用促進策として、市内の企業やダンス教室等へのダイレクトメールの発送を行った他、港北区役所内の掲示版にラポール（事業団）専用ブースを設け、施設紹介ポスターの掲示やイベント情報を紹介しました。広報については、広報紙「ラポラポ」やインターネット等をとおして、ラポールの事業を紹介し、障害者の社会参加の促進を図りました。また地下鉄沿線の PR ボックスにて広報誌の配布を行いました。

#### (2) 平成 25 年度における重点的な取組

平成 25 年度における重点的な取組については、以下のように実施しました。

##### ア 利用者サービスの向上

利用者の意見を取り入れながら、サービスの向上を図るとともに、季節行事として、こいのぼりや五月人形の飾りつけなど、季節に合わせた取り組みを年 7 回実施しました。ラポールホームページからの電子メールによる意見・投書等を受け付けできるようにした他、ラポール PR ビデオの作成、市政情報コーナーの設置や掲示板の増設、地下駐車場の案内表示を利用者に解りやすいよう、リニューアルをいたしました。また、大会議室・ラポールボックスにおいては、インターネットの閲覧が出来るよう無線 LAN 装置を設置する等、利用者へのサービス向上に努めてまいりました。

##### イ 安全で快適な施設運営の基盤整備

東日本大震災を契機に、毎月 11 日を防災の日と定め、震災を想定した訓練や防災備品の点検等を行い、職員一人ひとりの危機管理に対する意識を高めました。

また施設の老朽化に対し、横浜市と計画的な整備を進め、安全で快適な施設運営に努めました。

#### ウ 経営感覚を持った管理・運営と増収対策

施設、設備の運営コストの削減を進めるとともに、スポーツ・文化事業においては、コスト面の見直しや「ラポラポ」の市営地下鉄駅PRボックスへの配布等、事業参加率向上等による増収策を行いました。また施設利用率向上策として、未利用時間帯のPR強化として、最新の施設予約状況を日々ホームページへ更新するとともに、近隣の企業や学校、ダンス・ピアノ教室等へラポール利用案内のダイレクトメール発送を行いました。

## 2 スポーツ振興事業

### (1) 運営方針

初心者に重点を置く「スポーツ人口の拡大」、スポーツを通じた障害者の「自立支援」及びラポールで培ったノウハウの「地域還元」に基づくスポーツ環境の向上をコンセプトに事業を実施しました。

### (2) 平成 25 年度における重点的な取組

#### ア 事業の整理と新たな事業展開への基礎づくり

ラポールが過去 20 年間で築いたノウハウを基に、各種事業の見直しや整理を行い、新たな目標に向かう事業展開の基礎を職員全体で検討しました。

#### イ 事業検討プロジェクトの着実な推進

昨年度立ち上げた、事業検討プロジェクト「利用者サービスの向上」「リハ事業団内の連携強化」「ラポールとしての地域支援」を発展的に継承し、新たな事業展開に結実します。「利用者サービスの向上」では、より分かり易い館内表示や周知等の情報提供、「リハ事業団内の連携強化」では、療育部門、成人部門、地域部門、高次脳機能障害部門等との事業協力の推進、「ラポールとしての地域支援」では、スポーツと文化の両面での事業展開、に取り組みました。

#### ウ 第三者評価に対する着実な準備と対応

第三者評価へ適切に対応するための準備を行い、一定の評価を得ました。評価委員会の結果を踏まえ、指摘された事項のうち、次回指定管理の公募スケジュール等も視野に入れつつ、できることから改善に努めました。

#### エ 人材育成の充実

新たな 20 年の事業展開において、ますます重要性の高まっている各種の人材育成については、職員の資質向上も含めて計画的に進めました。

### (3) 事業内容

#### ア スポーツ初期相談

新たにラポールを利用する人に対し、各種教室や施設の紹介等の相談を行いました。また、必要に応じた主治医や担当セラピストへの照会などを通して、利用者が適切なプログラムへ速やかに参加できるよう、第一次のスクリーニング機能を果たしました。

## イ リハビリテーション・スポーツ

医学的リハビリテーションと社会リハビリテーションの中間に位置するリハビリテーション・スポーツをラポールにおけるスポーツ指導の中核と位置づけ、様々な障害者への指導を行いました。

リハセンターとの連携では、ラポールの中で特に多数を占める脳血管障害片麻痺の利用者を主たる対象として、転倒骨折予防の講義を行いました。この教室も含め、転倒に関する利用者の関心が非常に高かったため、利用者の転倒発生状況を調査して、神奈川リハビリテーション研究会で発表しました。

また、日常的にスポーツ相談・健康相談・個別指導等を実施し、特に医療的な配慮が必要と考えられた対象者には、リハセンター医師による医事相談を行いました。リハビリテーション・スポーツ教室として、成人片麻痺者、肢体不自由児、知的障害児、高次脳機能障害者の各クラスを開催しました。

### <リハビリテーション・スポーツ>

プログラム	内 容	回数	参加者数
各種相談	スポーツ相談や健康相談等	619回	619人
リハ・スポーツ教室(学齢)	学齢発達障害児を対象とする教室	11回	57人
リハ・スポーツ教室(高次脳)	高次脳機能障害者を対象とする教室 やフォローアップ	48回	1,562人
リハ・スポーツ教室 (フォローアップ)	教室参加後にフォローの必要性が生じたケースへの対応	4回	28人
リハ・スポーツ教室 (リハセンター連携プログラム)	リハセンターの理学療法士と連携したプログラム	1回	20人
健康づくりモデル事業 <sup>1)</sup> (リハセンター連携プログラム)	リハセンターと連携した、障害者の健康づくりモデル事業	1回	180人
個別指導	障害に応じたマンツーマン指導	557回	557人
学齢障害児支援	学齢障害児のスポーツ体験	40回	234人
旅リハ教室	旅リハ参加者に向けた教室	3回	58人
体力診断(体力測定)	リハ・スポ教室(成人)の参加者を 主な対象とする体力測定	2回	102人
合 計 (昨年度) 3,417人 (3,430人)			

\*1) 国立身体障害者リハビリテーションセンターが進める「障害者の健康づくりプログラムの構築と普及のための地域連携モデル事業」をリハセンター及びラポールが緊密に連携して実施しました。実施にあたっては、横浜市総合リハビリテーション事業団に設置された研究倫理開発審査委員会における審査を受け、参加者に対する十分な説明とそれに基づく同意書の提出を条件としました。

## ウ スポーツ・レクリエーション

障害者がスポーツ・レクリエーション活動に、“いつでも”“どこでも”自由に参加できるように、障害者にとって使いやすいスポーツ施設の運営を行いました。

また、身近な施設においてもスポーツ・レクリエーション活動ができるような環境づくりを推進しました。

スポーツ教室では、リハビリテーション・スポーツとの有機的な連携のもと、生涯スポーツ活動の定着に向けた指導を行いました。また、上級者向けのプログラムを実施し、全国障害者スポーツ大会の予選を兼ねるハマピック競技大会の充実を図りました。

### <スポーツ・レクリエーション教室>

プログラム	内 容	回数	参加者数
卓球教室（初心者・初級者）	卓球の初心者・初級者の教室	24回	354人
卓球教室（中級者）	卓球の中級者を対象とする教室	24回	590人
卓球教室（上級者）	卓球の上級者を対象とする教室	24回	321人
水泳教室（はじめてプール）	水泳の初心者を対象とする教室	9回	12人
水泳教室（らくらくクロール）	水泳の初級者で片麻痺以外の方を対象とする教室	40回	1,508人
水泳教室（選手クラス）	水泳の競技選手を対象とする教室	19回	488人
ジュニアダンス教室	発達障害の学齢女子を対象とするダンス教室	31回	321人
横浜 F・マリノス futuro	マリノスと協働で開催している知的障害者のサッカー教室	40回	1,950人
アウトドアスポーツ教室	ヨットの体験乗艇を行う教室	11回	67人
合 計（昨年度）		5,611人（5,791人）	

### <スポーツ・レクリエーションの時間>

プログラム	内 容	回数	参加者数
グラウンドゴルフ広場	グラウンドゴルフを楽しむ時間	85回	587人
フライングディスクの時間	フライングディスクを楽しむ時間	8回	152人
オリジナルスポーツの時間	ラポールで独自に開発したビンゴボールやターゲットボッチャ等のスポーツを楽しむ時間	47回	926人
卓球の時間	卓球を楽しむ時間	21回	419人
ボッチャの時間	ボッチャを楽しむ時間	20回	283人
合 計（昨年度）		2,367人（2,975人）	

エ スポーツ大会・交流イベント

障害者のスポーツの普及振興及び競技力向上を目的に「ハマピック」を行いました。「ハマピック」の結果に基づいて全国障害者スポーツ大会への派遣選手を選考し、10月に東京都で行われた本大会へ選手を派遣しました。なお、代表となった選手には本大会までの間、強化練習を実施し、競技力の向上を図りました。

知的障害者のサッカーの普及を図るため、横浜F・マリノスとの共催事業としてサッカー教室を開催しました。

スポーツフェスタとして「水泳の日」「ボッチャの日」「ボウリングの日」「バスケットボールの日」「サッカーの日」を開催し、健常者を含めた各種目の愛好者間の交流を進めました。また、競技力の向上を目的に「オレンジリーグ（卓球）」「ボッチャリーグ」「フライングディスク記録会」を実施しました。さらに「ラポールの祭典」「障害者スポーツ体験」等の開催を通じて、市民が広く障害者のスポーツを理解できる機会の促進を図りました。

<第18回ハマピック>

プログラム	内 容 <sup>リ</sup>	回数	参加者数
水泳	身体障害及び知的障害を対象とした水泳競技（4月21日）	1回	234人
卓球	身体障害及び知的障害を対象とした卓球競技（4月28日）	1回	55人
フライングディスク	身体障害及び知的障害を対象としたフライングディスク競技 （4月29日：日産小机フィールド）	1回	90人
陸上	身体障害及び知的障害を対象とした陸上競技（5月5日：三ツ沢公園陸上競技場）	1回	466人
サウンドテーブルテニス	視覚障害を対象としたサウンドテーブルテニス競技（4月14日）	1回	17人
アーチェリー	身体障害を対象としたアーチェリー競技（4月14日）	1回	5人
ボウリング	知的障害を対象としたボウリング競技 （4月14日：港北とうきゅうボウル）	1回	57人
バスケットボール	知的障害を対象としたバスケットボール競技（9月21日）	1回	90人
ソフトボール	知的障害を対象としたソフトボール競技（11月10日：岸根公園野球場）	1回	21人
バレーボール	知的障害を対象としたバレーボール競技（11月24日）	1回	108人
サッカー	知的障害を対象としたサッカー競技 （12月8日：しんよこフットボールパーク）	1回	96人

合 計 (昨年度)	1,239 人 (1,266 人)
-----------	-------------------

\*1) 内容欄で会場の記載のないものは、ラポールのスポーツ施設における実施です。

<スポーツ・フェスタ>

プログラム	内 容	回数	参加者数
水泳の日	どなたでも参加が可能な水泳の記録会 (7月7日)	1回	458人
ボウリングの日	障害のある方と介護者、家族を対象とした記録会 (9月1日、1月19日)	2回	119人
ボッチャの日	どなたでも参加が可能なボッチャの競技会 (2月9日)	1回	11人
バスケットボールの日	どなたでも参加が可能なバスケットボールの競技会 (8月4日)	1回	69人
サッカーの日	どなたでも参加が可能なサッカーの競技会 (3月16日)	1回	80人
合 計 (昨年度)		737 人 (912 人)	

<各種リーグ戦や記録会>

プログラム	内 容	回数	参加者数
オレンジリーグ (卓球)	卓球やサウンドテーブルテニスの競技力向上を目的としたリーグ戦	11回	509人
ボッチャリーグ	ボッチャの競技力向上を目的とした競技会	10回	270人
フライングディスク記録会	フライングディスクの競技力向上を目的とした記録会	7回	77人
ボウリング記録会	ボウリングの競技力向上を目的とした記録会	6回	117人
全国大会強化練習	横浜市代表選手を対象に競技力の向上を図る練習会	44回	356人
合 計 (昨年度)		1,329 人 (1,211 人)	

<第13回全国障害者スポーツ大会の実績>

期 間：平成25年10月10日～14日

開 催 地：東京都

派遣人数：選手86人・役員47人の合計133人

成 績：金=30個、銀=22個、銅=19個 (大会記録2)

メダル獲得率：全国第2位

オ 人材育成

横浜市域における障害者のスポーツ活動を支える実効性の高い人材育成と活用の

拡充が重要であると捉え、これまでの各種研修に加え、より実践的で現場に活かせるプログラムを実施しました。

<各種研修>

プログラム	内 容	回数	参加者数
障害者スポーツ・ボランティア養成入門講座	原則 15 歳以上、横浜市に在住のボランティア活動希望者を対象とした研修会 (5 月 16 日～9 月 30 日)	10 回	62 人
初級障害者スポーツ指導員養成講座	原則 18 歳以上、横浜市に在住のスポーツ・ボランティア養成入門講座受講者かスポーツ・レクリエーションの指導を行っている方を対象とした研修会 (2 月 1 日、2 月 2 日・15 日・16 日)	4 回	212 人
ステップアップ研修会	横浜市域の障害者のスポーツ活動を支援するボランティアや指導者に必要な知識と技術の向上を図る	2 回	48 人
障害者スポーツ体験研修会	横浜市内の学校を中心に小中学生や教職員へ障害者スポーツの理解を深める体験研修会	10 回	2,362 人
地域スポーツ団体研修会	横浜市体育協会や地域ボランティア等を対象にした実践的な研修会	12 回	219 人
大学機関への障害者スポーツ研修会	横浜市内外の大学に対する講義・実習、卒論研究協力等による普及啓発	21 回	97 人
横浜市職員や企業向けの障害者スポーツ体験研修会	横浜市や企業の職員に対し、障害者スポーツの普及啓発を図る研修会	4 回	38 人
中学生・高校生職場体験	中学生や高校生がラポール各課の見学や体験を通し、職業について学ぶ研修	3 回	18 人
職場内研修	事業団職員の新人研修とラポールスポーツ指導員のスキルアップ研修	11 回	272 人
合 計 (昨年度)		3,328 人 (6,418 人)	

カ 地域支援

今年度の地域支援は、全 18 区を対象に全体で 253 回実施しました。(これまでの平均は約 240 回、最多 308 回) 実施内容では、例年同様のグラウンドゴルフやボッチャ等が中心でしたが、下半期からは「ハマピックを盛り上げる！」という方針のもと、地域における卓球プログラムの充実を図りました。また、難病系(関節リウマチ、ALS、脊髄小脳変性症等)の対象に向けた支援ニーズが増加傾向にありました。地域におけるネットワーク作りでは、前年度から引き続いて瀬谷・金沢・鶴見・旭・戸塚において、関係機関等との定期的な連絡会の開催を継続し、

ネットワークとしての機能が定着するよう努めました。

<地域支援>

プログラム	内 容	回数	参加者数
スポーツ教室	原則、地域の障害者を対象としたスポーツ教室	93回	1,809人
フォローアップ	ラポールのこれまでの取り組みにより、地域で自主的なスポーツ活動を開始したサークル等に対する支援	60回	1,218人
研修	地域のボランティア等を対象とした研修	1回	70人
介護予防系プログラム	主に高齢者を対象としたプログラム	4回	263人
その他	原則として地域の障害者を対象とした出張スポーツ指導や、地域間交流スポーツ大会等の開催	95回	1,399人
合 計 (昨年度)		4,759人 (5,754人)	

キ 新しい取組

「ハマピックを盛り上げる！」という当面の目標を掲げ、中でも卓球とボウリングを軸に振興を図るために、担当を超えたプロジェクトチームでプランを作成しました。このプランに基づき、主に地域での卓球やボウリング活動の推進に向けた体験会等を開催したり、地域で卓球の普及を試みる団体等に対して、用具の寄付を行いました。

平成25年4月に施行された「障害者総合支援法」において、新たな障害者福祉サービスの対象者となった難病系の利用者へ、適切な指導が行えるよう、難病等に関する理解を深める研修を行いました。また、青葉区、戸塚区、旭区等からの依頼に基づき、地域の難病対象者向け支援として、対象者の状況に合わせたトレーニングメニューを作成し、指導を行いました。

国立身体障害者リハビリテーションセンターが進める、「障害者の健康づくりプログラムの構築と普及のための地域連携モデル事業」に、リハセンターと連携して取組み、ラポールやリハセンター利用者の生活習慣病改善等を図りました。このモデル事業の取組みを通して、今後ラポールメニューの一つとして、確立していく方針です。

■その他として

ア ラポールの祭典

9月1日(日)、ラポール利用者同士の交流や市民への啓発を目的に、「ラポールの祭典」を開催しました。恒例となった「小机小学校マーチングバンド」の演奏から始まり、大日本プロレスのイベント、横浜女学院による書道ガールズの演技、

障害者スポーツ体験等の実施や、地域のグループによるバザー、ラポールに登録しているサークルの模擬店等を開き、約 2,500 人の方が参加しました。

#### イ 横浜市への協力

スポーツ基本法の制定以後、横浜市が主催するスポーツイベントにおいて、障害者の視点に立った運営がなされるようになってきました。これらは、ラポールの自主事業ではありませんが、技術・知識の提供、職員派遣などの面で横浜市に協力しています。

①世界トライアスロンシリーズ横浜大会 パラトライアスロン（障害者の部）

②横浜マラソン 車いすの部

③横浜シーサイドトライアスロン ペアチャレンジの部

また、同じく横浜市の健康増進施策である「よこはま健康ポイントラリー」にヨッテクやラポールの祭典等で協力しました。

#### ウ ふるさと港北ふれあい祭り

10月19日（土）に開催された、「2013 ふるさと港北ふれあい祭り」に出展しました。ラポールのブースでは、ツインバスケットボールのゴールを用意し、車いす操作とシュート体験を企画、お子様を中心に多くの方が挑戦し、障害者のスポーツを身近に感じる機会を提供しました。

### 3 文化振興事業

#### (1) 運営方針

障害者の文化活動発表の場である「横浜ラポール芸術市場」や、障害児のおもちゃ遊びを支援する「おもちゃ図書館」など、多様な文化体験や能力開発ができる「観る・聴く・楽しむ」場を提供しました。また、文化活動を支援する人材の確保・育成に努めました。

#### (2) 平成 25 年度における重点的な取組

##### ア リハビリテーション・カルチャー（リハカル）の推進

主に片麻痺の方を対象に、横浜市総合リハビリテーションセンターと連携し、生活自立に直結した内容の講座を実施しました。「片手でできる料理教室」を中心的な事業として位置付け、実施しました。

※リハビリテーション・カルチャーとは、QOL の向上を目的とした文化活動として、平成 22 年度より用いている横浜ラポールによる造語です。略して「リハカル」と呼んでいます。

##### イ プロの技法を学ぶワークショップの提供

日頃なかなか体験することの少ない分野の体験型ワークショップを提供しました。また、その分野の専門的な講師陣や団体などと連携を図り、利用者の意欲を湧き立てる高レベルなワークショップを目指し、あわせて障害特性に応じた指導法や補助具を検証し、実践しました。

## ウ 地域支援事業

移動おもちゃ図書館をはじめ、料理教室などの各種教室を、今まで開催したことがない区（旭区）においても開催しました。

## (3) 文化企画事業

障害者の文化活動発表の場である「横浜ラポール芸術市場」、ラポールシアターでのコンサート等のほか、どなたでも気軽に参加できる「ラポールファクトリー」を開催しました。

また、様々な文化教室・ワークショップ、陶芸作品の窯焼きを毎月実施しました。

### ア 文化振興事業

障害者の文化活動発表の場である「横浜ラポール芸術市場」の開催にあたっては、作品・出演者を広く公募し、日頃の活動が発表できる場としました。

平成 25 年度は横浜音祭り 2013 連携イベントとして実施しました。

### <横浜ラポール芸術市場>

プログラム	内 容	回数	参加者数
ラポール美術展	絵画、写真、書、陶芸など 499 点の作品の展示会。同時に「さをり織り」や書道などのワークショップを体験コーナーとして「あなたも芸術家!?!」を併催(10月21日～27日)	1回	2,615人
いのち 生命のリズム	障害のある方が参加している太鼓や創作舞踊のグループの合同発表会(11月2日)	1回	192人
ジョイフルフェスタ	障害のある方が参加しているグループによるダンス・ゴスペルなどの合同発表会(11月3日)	1回	246人
DANCE-DANCE-BEAT	障害のある方が参加しているグループによるダンスと和太鼓の発表会(11月10日)	1回	312人
オータムコンサート	横浜ラポールのワークショップから自主サークルで活動しているグループや地域の障害者団体によるコーラス発表会(11月23日)	1回	121人
みんな de パソコン	障害者のパソコン利用支援グループ「ドリームナビゲーター横浜」による、パソコンを使っての缶バッジ作りやタブレット操作体験 ※パソコン相談会と併催(11月30日)	1回	64人
ハートフルコンサート	障害者によるピアノ演奏や器楽合奏等の合同発表会(11月30日)	1回	190人

OTO2013	障害がある方たちによる音楽をテーマにした合同発表会（12月1日）	1回	129人
野点	ラポールで活動している茶道サークルによる抹茶のサービス（12月1日）	1回	90人
演劇ワークショップ発表会「どんぐりと山猫」	春より実施した演劇ワークショップの参加者による発表会イベント。（12月8日）	1回	232人
ミュージカル「あなたの笑顔が見たくて～ラストプレゼント～」	障害者グループによるミュージカルの合同発表会（12月21日）	1回	303人
合 計（昨年度）		4,494人（4,338人）	

#### イ 交流事業

障害の有無に関わらず、多くの人々が共に楽しめるイベントを、様々な団体と共同企画し、幅広い文化領域にわたって開催しました。

また、1階ロビーでは月1回程ラポールファクトリーを実施しました。

#### <自主・共催企画事業>

プログラム	内 容	回数	参加者数
ビッグ・アイアートプロジェクト 「共振×響心」展	国際障害者交流センターとの共催による、国内外の障害者アーティストの入選作品展 （5月16日～5月20日）	1回	505人
横浜交流音楽祭	アマチュアとプロ、さらに障害者の演奏家による市民手作りの音楽交流フェスティバル （5月25日）	1回	225人
福祉レクリエーションフォーラム in 横浜ラポール	全国福祉レクリエーション・ネットワーク、日本レクリエーション協会との共催による、障害者の文化活動を支える方々を養成するフォーラムを開催（6月8日・9日）	2回	93人
アフタヌーンコンサート	シアターの空き時間を利用したボランティア団体による、気軽な弦楽コンサート （6月8日、12月7日）	2回	96人

映画上映会 「僕のうしろに道はできる」	脳幹出血で倒れた特別支援学校の教諭の姿を通して生きていく希望を描くドキュメンタリー映画の上映会（6月9日）	1回	84人
きりくハンドベルコンサート	世界的に活躍しているハンドベルグループによるコンサート（6月23日）	1回	155人
夏休み 舞台のお仕事講座	シアターの音響・照明機器に実際に触れてもらい、舞台演習がどうなされているか実際に体験してもらう講座（8月23日・24日）	2回	11人
字幕付きこけし浄瑠璃「はなこのおむこさん」	伝統的なこけしを使った浄瑠璃の鑑賞会に聴覚に障害がある方にも楽しんでもらえるよう、日本語字幕を付けて実施。また、こけし絵付けワークショップの参加者もプロとコラボレーションして参加（10月6日）	1回	66人
「障害者週間」国際親善交流特別演奏会	日本音楽文化交流協会と共催し、障害者を無料招待したクラシックコンサート。横浜音祭り2013連携イベントとして実施（10月30日）	1回	238人
ラポール寄席	新横浜ライオンズクラブと共催し、障害者・パラリンピック支援を目的に、障害者と地元市民の交流を図るため寄席を実施（2月15日）	1回	106人
ワンコインシアター防災人形劇「稲むらの火」	ろう者と聴者が共同で作るプロの人形劇団体による公演（2月16日）	1回	64人
耳の日イベント字幕付き映画上映会「それいけ！アンパンマン とばせ！希望のハンカチ」	聴覚障害の方にも楽しんでいただけるよう、字幕サークルが日本語字幕を付けた映画会。子供向けに手遊びコーナーも実施（3月1日）	1回	173人
春休み特別映画上映会「ジュノー」	日本語字幕・音声ガイドが付いた作品のバリアフリー映画上映会（3月29日）	1回	37人
合 計（昨年度）			1,853人（2,151人）

<ラポールファクトリー>①

プログラム	回数	参加者数
-------	----	------

ようこそ紙芝居の世界へ<手話通訳付き>	8回	52人
ロビーマジックショー		50人
七夕に奏でるヴィヴラフォンとヴァイオリンの響き		77人
くまふうミニライブ		42人
歌って踊って！紙芝居がやってきた！！		62人
みんなで聴こう！クリスマスコンサート		55人
健太とさくらのかわいい腹話術		55人
ツネ蔵ミニライブ		61人
合計（昨年度）		454人（554人）

\*1) 1階ロビーにて、毎月1回、第2土曜日の昼休みに音楽会などを開催しました。  
(4月・8月・9月・1月を除く)

#### ウ 自己啓発事業

障害者の創作活動や余暇活動を支援するために、対象者やテーマ別に各種の教室・体験会を開催しました。

<教室等>

プログラム	内 容	回数	参加者数
失語症の方のための会話の会	リハセンターの言語聴覚士と連携、ST訓練を経た失語症者に対し、テーマに沿った内容の座談会を支援するプログラム	12回	83人
失語症の女性のための会話の会	リハセンターの言語聴覚士と連携、ST訓練を経た失語症の女性に対し、テーマに沿った内容の座談会を支援するプログラム	12回	79人
キッチンスタジアム in ラポール	リハセンターの作業療法士、ソーシャルワーカーと連携、片麻痺の方を対象にした料理教室	8回	53人
バリアフリークッキング in フォーラム	「男女共同参画センター横浜」との共催で、主に障害のある男性を対象にした料理教室（9月14日・21日）	2回	19人
バリアフリークッキング in アートフォーラムあざみ野	「男女共同参画センター横浜北」との共催で、主に障害のある男性を対象にした料理教室（12月7日・14日）	2回	19人
バリアフリークッキング in 能見台地区センター	能見台地区センター（NPO 法人金沢区民協働支援協会）との共催により、昨年度に続く料理教室（2月22日） ※大雪のため、延期かつ実施日減	1回	6人

ラポールバリアフリー クッキング	食生活に興味を持ち、栄養や料理についての知識を深めるとともに、簡単で健康的なメニューに取り組む人気の料理教室	6回	71人
アートサロン	主に中途障害者を対象とした平日実施の 絵画教室	9回	106人
ものづくり広場	主に10～30歳代の知的障害者を対象とした、 絵画や工作を中心とした教室	9回	102人
造形ワークショップ	主に身体障害者を対象とした絵画や造形 作品を制作する教室	8回	47人
夏休み親と子の 工作教室	神奈川県建一般労働組合横浜支部菅田分 会の協力により、親子で楽しめる木工やタ イル細工の教室（8月11日）	1回	49人
演劇ワークショップ	主に知的障害者を対象に、演劇／ミュージ カル体験の場を提供し、仲間づくりや表現 力向上を支援する新たな通年プログラム	16回	189人
こけし色付けワークシ ョップ	山形県山寺の名工に協力を仰ぎ、日本の郷 土文化「こけし」の色付けに挑戦する希少 な体験教室（7月2日・16日）	2回	21人
こけし浄瑠璃ワークシ ョップ	完成したこけしを用い、プロの「こけし浄 瑠璃」の舞台に特別出演するため、振り付 け等を練習する教室（8月27日、9月3 日・17日・24日、10月1日）	5回	23人
食育ワークショップ	障害児とその家族が、短時間かつ気軽に参 加することができる親子の料理教室 （8月23日・24日、3月21日・22日）	4回	66人
陶芸1日体験教室 （初心・初級・親子）	片麻痺、視聴覚障害、障害児等年齢や障害 の特性に配慮した陶芸体験会	13回	204人
陶芸サロン	陶芸初心者のためのフォローアップとし てサロン形式で実施	12回	67人
合 計（昨年度）		1,204人（1,044人）	

<陶芸窯焼成>

プログラム	内 容	回数	参加者数
陶芸窯焼成個人	個人利用者が対象の素焼きと本焼き（有料）	6回	224人

陶芸窯焼成大物	20 cm以上の大物作品の焼成	3回	14人
合 計 (昨年度)		238人 (290人)	

#### (4) おもちゃ図書館事業

おもちゃ図書館事業では、障害児が地域や家庭で遊びの幅を広げられるよう多様なおもちゃを保管し遊びの場を提供するとともに、障害児及び障害児関連団体等を対象におもちゃ等の貸出を行いました。25年度のおもちゃ図書館利用者数は8,853人(昨年度8,088人)で、そのうち団体利用は473人でした。

また、主に夏休み・春休み期間のおもちゃ展や工作教室、おもちゃ病院など、楽しく参加できる行事やボランティア研修会を実施し、延べ2,836人(昨年度3,195人)が参加しました。新規におもちゃ図書館前のロビーにて布おもちゃやかかるた等の展示をしました。更に、館外での事業として「出張おもちゃ図書館」等を実施し、地域活動を支援しました。

#### ア おもちゃ・紙芝居・書籍類の貸出

内 訳	25年度貸出数	(昨年度)
個人貸出 (障害児・保護者等)	2,726点 1,181人	(4,354点) (1,397人)
団体貸出 (療育機関・訓練会等)	2,746点 452団体	(2,387点) (452団体)

#### イ 研修会の実施(サポーターバンク研修を兼ねる)

プログラム	内 容	回数	参加者数
パワーアップ セミナー	「深く伝える技術」「憲法の知恵ブクロ」などの著者、伊藤真さんの講演。 (6月22日)	1回	30人
横浜ラポール 文化セミナー	「木のおもちゃを子育てに生かして～ほのぼの先生とちいさななかまたち」の著者、三輪義信さんの講演。 (11月30日)	1回	30人
研修会実習	簡単織り機でコースターづくり 講師：三輪義信 (11月30日)	1回	21人

#### ウ 行事・イベント等の実施

プログラム	内 容	回数	参加者数
おもちゃ病院	個人や団体・横浜ラポールの壊れたおもちゃ計 378 点をワイワイおもちゃドクターズ倶楽部のボランティアが修理	12 回	個人 135 人 団体 25 件
みんなのお楽しみ会	第 2 土曜日に実施する、お誕生月の児童のお祝いのための手遊びやマジック	9 回	218 人
工作ひろば	第 2 土曜日に実施する、年齢問わず参加できる簡単な工作の会	6 回	140 人
紙のおもちゃ展	震災の時に活躍した電池を使わない紙のおもちゃとして、かるたやすごろく、カードなどを展示 (6 月 22 日～6 月 24 日)	1 回	475 人
紙のおもちゃ展 ワークショップ	巻紙で昆虫をつくろう 講師：加藤道夫 (6 月 22 日・23 日)	2 回	22 人
わくわくボックス	「縁日ごっこ」「クリスマス」などをテーマに、ボランティアや演奏グループが中心になって開催する遊びの会 (7 月 7 日、12 月 14 日)	2 回	164 人
わくわくボックス ワークショップ	クッキーのクリスマスデコレーション 講師：熱田沙緒里 (12 月 14 日)	8 回	130 人
四季の工作	貝殻や木の実などの自然素材を利用した 工作教室 講師：黒川信人 (8 月 3 日・11 月 2 日)	2 回	78 人
夏のおもちゃ展 ～光や影と遊ぼう！～	光るおもちゃをはじめ、影絵や投影など 光をつかった遊びの紹介・展示。 (8 月 22 日～8 月 26 日)	1 回	436 人
夏のおもちゃ展 ワークショップ	プチキラ万華鏡をつくろう 講師：庄野紀明 (8 月 24・25 日)	4 回	54 人
バリアフリーの 絵本と布の おもちゃ展	「障害」をテーマにした絵本 30 冊と、ボ ランティアが製作した布のおもちゃの展 示。(11 月 21 日～12 月 1 日)	1 回	カウント無 3 階ロビー 展示
かるた&すごろく 展	色々なかるたやすごろくを展示。 (1 月 24 日～2 月 2 日)	1 回	カウント無 3 階ロビー 展示
春のおもちゃ展～ コロコロおもちゃ 特集～	ビー玉や木の玉などを転がして動きを楽 しむおもちゃの展示 (3 月 27 日～3 月 31 日)	1 回	258 人
春のおもちゃ展 ワークショップ	フラワーボールをつくろう 講師：栗本久代 (3 月 29 日)	3 回	20 人

ラポールの祭典 「おもちゃの広場」	神奈川県内のおもちゃ図書館ボランティアによる遊びや工作教室（9月1日）	1回	600人
合 計（前年度）		2,836人（3,195人）	

(5) 情報ネットワーク

パソコン等の情報端末をとおして、社会参加のための情報収集・提供やコミュニケーションの支援を行いました。また、情報バリアフリーを進めるための講座などを行いました。

ア ホームページの運営

横浜ラポールのイベント情報等を中心とした、ホームページのコンテンツ制作及び運営を行いました。また、横浜ラポール内の全施設の予約状況は運営日に毎日更新し、広報誌（ラポラポ）が閲覧できるページについては、月1回の更新を実施しました。

ホームページアドレス <http://www.yokohama-rf.jp/shisetsu/rapport/>

イ 運営状況

年間総アクセス数： 852,291件（昨年度：736,849件）

<情報バリアフリー支援講座等>

プログラム	内 容	回数	参加者数
パソコン相談会	パソコンボランティアの協力を得て、初心者を対象とした、パソコンの購入・使用方法等に関する相談会とパソコン体験会	4回	119人
夏休みパソコンであそぼ	中高校生を対象とした、パソコンを使ったオリジナルバッグ作成などの講習会	2回	11人
スマートフォン体験教室	高機能携帯電話（スマートフォン）の基本操作体験と障害のある方の活用事例講習会	1回	11人
合 計（昨年度）		141人（462人）	

(6) 地域支援

地域における障害児・者の文化活動を推進するため、市内の施設などと共催事業等を実施しました。

<地域支援>

プログラム	内 容	回数	参加者数
バリアフリークッキング in フォーラム [再掲]	「男女共同参画センター横浜」との共催で、主に障害のある男性を対象にした料理教室（9月14日・21日）	2回	19人

バリアフリークッキング in アートフォーラムあざみ野[再掲]	「男女共同参画センター横浜北」との共催で、主に障害のある男性を対象にした料理教室（12月7日・14日）	2回	19人
バリアフリークッキング in 能見台地区センター[再掲]	能見台地区センター（NPO 法人金沢区民協働支援協会）との共催により、昨年度に続く料理教室（2月22日） ※大雪のため、延期かつ実施日減	1回	6人
当事業団利用者作品展 at 横浜市役所	当事業団を利用されている方たちの出張作品展。市役所の障害者週間イベントに合わせて実施（12月3日～12月9日）	1回	—
移動おもちゃ図書館 「あおばおもちゃのひろば」	「あおばおもちゃのひろば」より依頼を受け、青葉区社会福祉協議会との共催で、地域の障害児と健常児の交流を目的に実施しているおもちゃ広場での活動支援（通年）	59回	2,616人
移動おもちゃ図書館 「にこてらす」	瀬谷区子育て支援拠点「にこてらす」より依頼を受け、同所が新たに取り組む障害児支援のための時間「にこポンテ」に、おもちゃの搬入出を介した定期的な支援（通年）	25回	178人
移動おもちゃ図書館 「あおばおもちゃのひろば in たまプラーザ地域ケアプラザ」	「あおばおもちゃのひろば」より依頼を受け、新設した「たまプラーザ地域ケアプラザ」での障害児と健常児の地域交流を推進する試行的企画に参画、支援（7月10日）	1回	82人
移動おもちゃ図書館 「ヨッテク」	ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド2013にて、ラポールのおもちゃ・地域のおもちゃ図書館の活動を紹介（7月26日・27日）	2回	—
移動おもちゃ図書館 「戸塚療育センター」	「戸塚療育センター」より依頼を受け、同センターが参画する「東戸塚地区センター秋まつり」に出展し、当館活動を紹介（10月26日）	1回	251人
移動おもちゃ図書館 「海の公園」	「MUTSURA おもちゃ研究所」より依頼を受け、金沢区の海の公園ふれあいセンターにて当館のおもちゃ、活動を紹介（11月9日～11日）	1回	93人
移動おもちゃ図書館 「ポポラ」	都筑区子育て支援拠点「ポポラ」より依頼を受け、「横浜ラポールのおもちゃ図書館がやってくる！」を実施、当館活動を紹介、施設との連携を強化（1月17日・18日）	2回	177人

移動おもちゃ図書館 「三ツ境養護学校」	リハセンター「研究開発課」より紹介を受け、同課が進める学校向け福祉機器体験会に参入、当館活動を紹介（2月2日）	1回	—
移動おもちゃ図書館 「リハセンター」	リハセンター「研究開発課」より依頼を受け、プレヨッテク 2014 セミナー実施中における障害児とその親の「憩いの場」として設置、協力（3月8日）	1回	25人
合 計（昨年度）		3,466人（4,111人）	

#### (7) 季節行事

平成 22 年度より、利用者に親しまれる「横浜ラポール館内の景観作り」として、自己啓発事業の教室で作られた美術作品を 1 階ロビーに展示するとともに、利用者の方々にも季節行事に参加していただきました。7 月の「七夕」では、利用者の方々に短冊に願い事を書いていただき、それらを地元の方からいただいた笹竹に飾り付けしました。その他には、5 月に「こどもの日」と合わせてこいのぼりの塗り絵や兜の展示、10 月に「ハロウィン」、12 月に「クリスマス」の飾り付けと作品展示、2 月に「節分」の飾り付け、3 月に「ひなまつり」の人形を展示しました。

## 4 聴覚障害者情報提供施設事業

### (1) 運営方針

国の定める「聴覚障害者情報提供施設」として、関係機関・団体や他都市の聴覚障害者情報提供施設と連携し、「手話・筆記通訳派遣」・「聴覚障害者相談」・「ビデオライブラリー」・「視聴覚機器の貸出」などの横浜市受託事業を実施しました。

横浜市筆記通訳者制度整備への協力については、引き続き横浜市及び関係団体と協力し制度整備に努めました。横浜市要約筆記者派遣制度切り替えのため、引き続き移行研修・登録試験の実施協力、新派遣要綱規定事項の調整等を行いました。相談事業では、横浜市総合リハビリテーションセンター及び関係機関団体との連携により「聞こえの相談事業」の事業内容の充実を図り、高齢ろう者（独居・夫婦世帯）への支援については、出張相談に積極的に取り組みました。

### (2) 平成 25 年度における重点的な取組

ア 横浜市筆記通訳者制度整備への協力

国の要約筆記奉仕員から要約筆記者への制度移行と連動した本市の通訳者制度の見直しについては、引き続き横浜市及び関係団体と協力し制度整備に努めました。

イ 聞こえの相談事業

横浜市総合リハビリテーションセンター及び関係機関団体との連携により、事業内容の充実を図りました。

ウ 高齢ろう者（独居・夫婦世帯）への支援

出張（訪問）による相談の拡充を引き続き図りました。

(3) 手話・筆記通訳派遣事業

聴覚障害者及び音声又は言語機能障害者が、社会生活上必要とする場合に手話または筆記通訳者を派遣し、意思の疎通を支援することにより聴覚障害者等の福祉の増進を図ることを目的として、事業を実施しました。

ア 平成 25 年度事業の概況

(ア) 横浜市非常勤手話通訳者 25 人、横浜市登録手話通訳者 127 人、横浜市登録筆記通訳者 98 人、当事業団手話・筆記通訳派遣業務担当職員 7 人で、手話・筆記通訳の依頼に対応しました。

(イ) 総派遣・紹介人数は 9,776 人(手話通訳 8,524 人・筆記通訳 1,252 人)でした。総派遣・紹介人数及び手話通訳派遣・紹介人数は過去最高でした。

(ウ) 公的派遣のうち、救急手話通訳者派遣数は 31 人でした。紹介のうち、横浜地方裁判所からの裁判員裁判に関する通訳依頼は 3 件あり、神奈川県及び川崎市の派遣窓口と連携して対応しました。また、神奈川県警通訳センターからの事件・事故の手話通訳者派遣は 36 人でした。その他、市外での通訳依頼で、他都市派遣制度に通訳者手配を依頼した事例は 43 件でした。また、他都市からの依頼で通訳者を派遣した事例は 76 件でした。

(エ) 通訳者の研修事業では、自主研修として、登録手話通訳者に対し、登録 1 年次、2 年次、3 年次、全体を対象に 4 コース(延べ 24 回)、非常勤及び中堅登録手話通訳者対象の専門研修を 5 回実施しました。また、横浜市中途失聴・難聴者協会の行う筆記通訳者研修の支援(手書き・パソコン計 12 回)、要約筆記者登録試験対策として、フォローアップ研修(筆記試験対策 1 回、実技 2 回)を実施しました。

派遣研修としては、全国要約筆記問題研究集会(福岡県)、全国聴覚障害者情報提供施設協議会コミュニケーション支援事業担当者研修会(京都府)に、担当職員を派遣しました。

(オ) 通訳者との会議・懇談では、非常勤手話通訳者業務調整会議を 6 回、手話通訳者事業連絡会、筆記通訳者事業連絡会を各 1 回実施しました。また、報酬改定の概要についての説明会を 1 回実施しました。

(カ) 関係機関団体との連携では、神奈川県及び川崎市との派遣窓口会議を 1 回実施し、25 年度の神奈川県全域の派遣について連携を確認しました。その他、消防局に対し救急手話通訳手配、神奈川県警通訳センターに対し事件・事故の際の通訳者手配、横浜地方裁判所に対し裁判員裁判通訳手配に関してそれぞれ協

力しました。

- (キ) 横浜市手話通訳者登録試験(手話通訳者全国统一試験)の運営・審査等に協力しました。
- (ク) 横浜市要約筆記者登録試験(要約筆記者全国统一試験)の運営等に協力しました。
- (ケ) 手話・筆記通訳者の報酬体系の見直しと、国方針を受けた派遣要綱の見直しについて調整しました。国の方針を受けた横浜市筆記通訳者制度(養成・認定・派遣)改正の調整を行いました。
- (コ) その他、情報提供施設に来所された聴覚障害の方で、代理電話(電話通訳)を希望された288人に対し、417件の通訳を実施しました。また、FAX(メール)でご依頼を受け、用件を相手先に電話し、結果をFAX(メール)お伝えするサービス(リレサービス)を13件実施しました。

イ 派遣人数

(ア) 手話・筆記通訳者別派遣・紹介人数

通訳者の種類		派遣人数	紹介人数	合計	
手話通訳者	非常勤手話通訳者	25人	3,176人	136人	3,312人
	登録手話通訳者	127人	3,992人	815人	4,807人
	情報提供施設職員	7人	65人	0人	65人
	小計	159人	7,233人	951人	8,184人
登録筆記通訳者		98人	1,291人	301人	1,592人
合計(昨年度)		257人 (268)	8,524人 (7,869)	1,252人 (1,205)	9,776人 (9,074)

(イ) 内容別派遣・紹介人数

通訳内容	手話通訳者		筆記通訳者		合計	
	派遣	紹介	派遣	紹介	派遣	紹介
医療・保健に関すること	4,186	48	121	0	4,307	48
	4,234		121		4,355	
司法に関すること	95	62	3	0	98	62
	157		3		160	
教育・保育に関すること	869	15	36	10	905	25
	884		46		930	
労働・雇用に関すること	347	349	27	106	374	455
	696		133		829	
社会生活に関すること	992	37	48	2	1,040	39
	1,029		50		1,079	
自己啓発に関すること	261	9	24	0	285	9
	270		24		294	
福祉推進に関すること	469	431	1,029	183	1,498	614
	900		1,212		2,112	

聴覚障害者相談の通訳	14	0	3	0	17	0
	14		3		17	
合 計 (昨年度)	7,233 (6,765)	951 (905)	1,291 (1,104)	301 (300)	8,524 (7,869)	1,252 (1,205)
	8,184 (7,670)		1,592 (1,404)		9,776 (9,074)	

<うち公的派遣人数>

	手話通訳関係		筆記通訳関係	
	派遣数	割合	派遣数	割合
医療・保健に関すること	4,186	57.9%	121	9.4%
司法に関すること	95	1.3%	3	0.2%
教育・保育に関すること	869	12.0%	36	2.8%
労働・雇用に関すること	347	4.8%	27	2.1%
社会生活に関すること	992	13.7%	48	3.7%
自己啓発に関すること	261	3.6%	24	1.9%
福祉推進に関すること	469	6.5%	1,029	79.7%
聴覚障害者相談の通訳	14	0.2%	3	0.2%
合 計	7,233	100.0%	1,291	100.0%

<公的派遣のうち、救急手話通訳派遣事業での派遣対応した人数>

通訳依頼時間	実績 (昨年度)	備 考
派遣窓口時間内(9:30-17:00)	15人(4)	
派遣窓口時間外(17:00-9:30)	16人(8)	同事業に登録している通訳者31人
合 計	31人(12)	

<紹介のうち、横浜地方裁判所からの裁判員裁判通訳依頼への対応人数>

回	予定日数	対象	通訳種別	予定人数(実績数)	備 考
1	4日間	1人	手話	11(2)	選任手続きのみ
2	8日間	1人	手話	23(2)	選任手続きのみ
3	8日間	1人	筆記	手書き2(2) PC0(42)	選任手続きのみ

※ 通訳人数は、横浜市・神奈川県・川崎市の合計数

<紹介のうち、神奈川県警通訳センターからの事件・事故通訳依頼への対応人数>

通訳依頼時間	実績 (昨年度)	備 考
派遣窓口時間内(9:30-17:00)	31人(29)	
派遣窓口時間外(17:00-9:30)	5人(6)	同事業に登録している通訳者26人
合 計	36人(35)	

他都市とのネットワーク

- a 他都市に派遣依頼した件数

通訳者の派遣を依頼した事業所	件数
群馬県聴覚障害者コミュニケーションプラザ	8
千葉聴覚障害者センター	8
神奈川県聴覚障害者福祉センター	6
埼玉聴覚障害者情報センター	4
東京手話通訳等派遣センター	3
茨城県立聴覚障害者福祉センターやすらぎ	3
新潟県	3
岩手県立視聴覚障害者情報センター	1
長野県聴覚障害者情報センター	1
鎌倉市	1
小田原市	1
静岡県聴覚障害者情報センター	1
名身連聴覚言語障害者情報文化センター	1
兵庫県立聴覚障害者情報センター	1
大分県聴覚障害者センター	1
合 計 (昨年度)	43(36)
依頼事業所数(昨年度)	15(10)

b 他都市からの依頼に対し通訳派遣した件数

通訳派遣の依頼があった事業所	件数
東京手話通訳等派遣センター	54
茨城県立聴覚障害者福祉センターやすらぎ	5
青森県聴覚障害者情報センター	4
群馬県みどり市社会福祉協議会	4
千葉聴覚障害者センター	2
小田原市	2
静岡県駿東郡長泉町社会福祉協議会	2
埼玉聴覚障害者情報センター	1
名身連聴覚言語障害者情報文化センター	1
川越市	1
合 計	76(32)
依頼事業所数	10(9)

(エ) キャンセル・変更等処理件数

内 容	件数	説 明
通訳者が手配できなかった	17	前日窓口終了後や当日の依頼で派遣不可能 等
依頼者からのキャンセル	312	取消・日程変更・主催行事中止・自然災害 等
派遣対象外	29	派遣場所が市外で、内容が市外派遣対象外 等
他都市の派遣窓口を紹介	64	広域の派遣として他都市窓口との連携 等

通訳者の変更	5	通訳者の事情（病気等）で変更等
日程変更	24	派遣日の変更
相談員	1	通訳派遣を利用せず、相談員が対応した
合計	452	

ウ 研修事業

(ア) 自主研修

a 登録手話通訳者1年次研修(対象者：9人)

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	5月13日	読みとり実技	8人	非常勤手話通訳者1人
2	6月17日	派遣事例検討	8人	職員1人
3	7月1日	聞きとり実技	9人	非常勤手話通訳者1人 横聴協1人 職員1人
4	8月5日	各場面模擬通訳Ⅰ	9人	登録手話通訳者1人 横聴協2人 職員1人
5	9月2日	各場面模擬通訳Ⅱ	9人	登録手話通訳者2人 横聴協2人 職員1人
6	2月3日	一年次研修まとめ	8人	職員2人

b 登録手話通訳者2年次研修(対象者：9人)

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	5月27日	読みとり実技	9人	非常勤手話通訳者1人 登録手話通訳者1人
2	7月22日	事例検討	7人	非常勤手話通訳者2人
3	9月30日	事例討議・模擬通訳	9人	非常勤手話通訳者1人 登録手話通訳者1人 職員1人
4	10月28日	ビデオ事例検討・ 模擬通訳	9人	非常勤手話通訳者1人 登録手話通訳者2人 職員1人

c 登録手話通訳者3年次研修(対象者：14名)

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	6月24日	対人事例検討	14人	登録手話通訳者1人 職員1人
2	8月26日	模擬通訳・相談員事例	14人	登録手話通訳者1人 職員2人
3	10月7日	問題解決のステップ	14人	世田谷福祉専門学校1人 職員1人

d コース別研修(対象者：全登録通訳者)

<聞きとり>

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	6月1日	シャドーイング実践Ⅱ	68人	非常勤手話通訳者3人
2	8月3日	手話通訳を科学する	72人	筑波技術大学1人
3	9月14日	豊かなイメージをふくらませようⅡ	75人	非常勤手話通訳者1人 登録手話通訳者2人

<読みとり>

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	5月18日	集い司会読みとり	72人	横聴協3人
2	10月12日	翻訳読みとりグループワークショップ	83人	職員1人
3	11月9日	二・三年次 翻訳読みとり	29人	非常勤手話通訳者2人 登録手話通訳者1人

<医療>

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	4月22日	事例発表	31人	非常勤手話通訳者3人 職員1人
2	11月18日	医療ロールプレイ	30人	非常勤手話通訳者2人 登録手話通訳者1人

e 全体研修(対象者：全手話通訳者)

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	6月15日	講義「日本手話のしくみ」	90人	明晴学園 1人
2	7月 6日	講義「聴覚障害者のソーシャルワーク」	82人	日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会 1人
3	9月28日	講義「コミュニティ通訳としての手話通訳」	97人	金城学院大学 1人
4	11月21日	講義「生活習慣の改善～骨密度測定から考える健康～」	72人	港北区健康づくり係 2人
5	1月18日	講義「障害者福祉の現状と展望」	92人	全国手話通訳問題研究会 1人

f 横浜市手話通訳者専門研修(対象者：非常勤25人・登録者43人)

回	実施日	内 容	参 加		講 師
			非常勤	登録者	
1	7月29日	実技「手話から日本語へ」	21人	—	国立障害者リハビリテーションセンター学院 1人

2	10月21日	講義「歯科治療について」	24人	29人 職員3人	高橋歯科クリニック1人
3	11月11日	司法：警察での取り調べの 模擬通訳	23人	26人 職員5人	県警通訳センター 1人 職員1人
4	1月20日	講義・事例討議 相談員との連携	24人	31人 職員2人	職員3人
5	2月17日	事例検討・グループ討議 (医療場面、困難な場面)	23人	—	非常勤手話通訳者 職員1人

(イ) 派遣研修

名 称	期日	場所	派遣者
全国要約筆記問題研究集会	6月22日～ 6月23日	福岡県	職員1人
全聴情協コミュニケーション支援事業担当者研修会	7月10日～ 7月12日	京都府	職員2人

(4) 聴覚障害者相談事業

聴覚障害者及び音声又は言語機能障害者の日常生活の各種の相談に応じ、個々の実情に即した適切な処遇を図り、聴覚障害者等の福祉の向上に資することを目的として事業を実施しました。

今年度も高齢者(独居・夫婦世帯)を含めた出張計画をたて、訪問による相談の拡充を図りました。また、聞こえや補聴器に関する専門相談として、平成24年2月から開始された「聞こえの相談事業」については、聴覚障害者相談員と横浜市リハビリテーションセンターの言語聴覚士が連携して、相談を実施しています。

ア 平成25年度事業の概況

- (ア) 総相談件数は655件でした。横浜ラポールへの来所相談に加えて、聴覚障害者相談員が出張し、聴覚障害者の居住地域の関係機関と連携しながら相談者への支援を行いました。
- (イ) 相談者の実数は161人、内聴覚障害者(個人)は153人でした。
- (ウ) 「聞こえの相談事業」の対応数は20件でした。主な内容は補聴器の購入に関する買換え・新規購入相談等が多くみられました。また、関連事業である「講座 聞こえと補聴器」にて事業の説明を行いました。同事業の事務局として、運営委員会(委員10人)を2回開催しました。
- (エ) 横浜市障害者社会参加推進センター主催の講座「聞こえと補聴器」に運営協力しました。
- (オ) 関東ろうあ者相談員連絡会(年4回)、全国ろうあ者相談員研修会(広島県、年1回)、全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会(埼玉県、年1回)に参加し、相談業務の一助としました。
- (カ) 聴覚障害者の聞こえやコミュニケーション方法について、ケアラ等の関係機関で講師を2回担当しました。また、訪問相談の取り組みについて、リハ事業

団研究発表会（12月）で発表した他、横浜市聴覚障害者協会主催のシンポジウム（11月）でも報告しました。

#### イ 相談の内容

##### <相談内容>（面接相談）

相談内容	実件数		延べ件数	
	件数	割合	件数	割合
医療	48件	13.8%	142件	21.7%
職業	23件	6.6%	27件	4.1%
教育	2件	0.6%	7件	1.1%
住宅	24件	6.9%	28件	4.3%
生活	144件	41.4%	249件	38.0%
福祉	85件	24.4%	145件	22.1%
法律	12件	3.4%	37件	5.6%
聞こえの相談	10件	2.9%	20件	3.1%
合計 （昨年度）	348件 (362)	100.0%	655件 (725)	100.0%

##### <相談の場所>

面接場所	25年度	24年度	23年度	
ラポール	505回	550回	577回	
出張	150回	175回	153回	
	訪問	68回	81回	95回
	同行	32回	32回	17回
	同席	34回	47回	40回
ケース会議	16回	15回	1回	
合計	655回	725回	730回	

##### <面接相談以外の対応>

聴覚障害者相談は、面接相談を基本としていますが、以前より、面接以外の方法による相談（電話、Fax、Eメールなど）等についても対応しています。

内容	H25年度件数
電話による相談	408件
FAX //	395件
Eメール //	116件
その他（郵便による相談、相談予約のための来所対応 等）	171件
合計	1,090件

#### ウ 相談者（面接）の状況

##### (ア) 障害別件数

種 類		実 人 数		
聴覚障害者（個人）	ろ う 者	123 人	80.4%	76.4%
	難 聴 者	30 人	19.6%	18.6%
	小 計	153 人	100.0%	
健 聴 者 （ 個 人 ）		6 人		3.7%
機 関 、 団 体		2 人		1.2%
合 計		161 人		100.0%

(イ) 聴覚障害者(個人)の居住地域

地 域 名	実人数		地 域 名	実人数		地 域 名	実人数	
鶴 見	19 人	12.4%	旭	13 人	8.5%	戸 塚	4 人	2.6%
神 奈 川	11 人	7.2%	磯 子	2 人	1.3%	栄	3 人	2.0%
西	2 人	1.3%	金 沢	5 人	3.3%	泉	3 人	2.0%
中	11 人	7.2%	港 北	16 人	10.5%	瀬 谷	7 人	4.6%
南	6 人	3.9%	緑	11 人	7.2%	市 外	3 人	2.0%
港 南	12 人	7.8%	青 葉	4 人	2.6%			
保土ヶ谷	13 人	8.5%	都 筑	8 人	5.2%	合 計	153 人	100.0%

(5) ビデオライブラリー事業

聴覚障害者用に字幕を挿入したビデオ及びCS 障害者専用放送統一機構「目で聴くテレビ」提供番組、通訳者研修教材ビデオの自主制作を行うとともに、字幕・手話入りビデオの貸出を行いました。

ア 平成 25 年度事業の概況

(ア) ライブラリーの制作では、字幕制作 3 作品・自主制作 37 作品の合計 40 作品を制作しました。字幕制作については字幕サークル「まじっく」の協力を得ました。

(イ) ビデオライブラリーの貸出は、89 件 434 本の実績でした。

(ウ) 全国聴覚障害者情報提供施設協議会主催のソフト制作担当職員研修会（11 月：福岡県で開催）に参加し、業務の一助としました。また、全国聴覚障害者情報提供施設協議会からの依頼を受け、第一回関東ブロックソフト制作担当職員研修会（6 月：ラポールで開催）の企画・運営を行いました。

イ ライブラリーの制作

種 類	制作数	作 品 名 等	備 考
字幕付き 映画上映会等の字幕制作	3 作品	字幕付きこけし浄瑠璃 「はなこのおむこさん」 「それいけ！アンパンマン とばせ！希望のハンカチ」（映画会） 「ジュノー」（映画会）	ラポール文化企画事業との連携(字幕制作と投影)
自主制作	2 作品	「つつうらうら～原鉄道博物館～」	オリジナル（CS 障害者専用放送統一機構番組提供）

		「つつうらうら～日本新聞博物館～」	含む)
	33 作品	通訳者研修講演 手話通訳者研修教材	手話・筆記通訳者派遣事業との連携
	1 作品	美術展PR	
	1 作品	横浜ラポール紹介ビデオ（字幕制作）	ラポール事業との連携

## (6) 視聴覚機器貸出事業

聴覚障害者団体や聴覚障害者を支援するサークル等に視聴覚機器の貸出を行いました。総貸出件数は769件でした。機器点検は年10回実施しました。

内 訳	在庫数	件 数
0 H P	3	2
ス ク リ ー ン	7	117
磁 気 ル ー プ	1	40
液 晶 プロジェクター	3	116
テ ー プ レ コ ー ダ ー	3	36
ビ デ オ カ メ ラ	2	42
O H C + プロジェクター	2	35
VHS + DVD ブルレイディスクレコーダー	1	38
パソコン文字通訳用機器	2	222
パソコン文字通訳用機器個人用	2	121
合 計 (昨年度)		769 (980)

## (7) その他の事業

### ア 広報事業

関係機関・団体および通訳者に対して聴覚障害者情報提供施設事業を紹介するため、機関紙「横浜ウエーブ」を年6回偶数月に各1,020部発行し、うち420部を横浜市聴覚障害者協会の会報「はま」に同封して頂きました。またラポールホームページにも掲載しました。

### イ 頸肩腕特殊健康診断

非常勤手話通訳者、登録通訳者（月5件以上）及び情報提供施設職員については7月と1月に直接検診を実施、登録手話・筆記通訳者全員には年1回問診票による予備検診を実施し180人が受診しました。予備検診の結果、直接検診が必要な通訳者は、7月の直接検診を受診しました。1回目の直接検診の結果、検診医から必要と判断された者は、2回目の検診も必ず受けてもらうこととしました。

<直接検診結果>

種 類	回	A	B1	B2	B3	C	計	判定基準
非常勤手話 通訳者	1	23	2	0	0	0	25	A :異常ありません B1 :疲労回復に心がけましょう B2 :働き方の見直しと改善を要します B3 :治療と業務軽減を要します C :休業治療を要します (日本産業衛生学会頸肩腕障害研究会)
	2	23	1	1	0	0	25	
登録手話・ 筆記通訳者	1	37	0	0	0	1	38	
	2	37	1	0	0	0	38	
情報提供 施設職員	1	10	1	0	0	0	11	
	2	10	1	0	0	0	11	

ウ 全国聴覚障害者情報提供施設協議会等との連携

第9回聴覚障害者情報提供施設総会及び大会(6月：新潟県で開催)、関東ブロック会議(8月：栃木県で開催)に参加しました。また、他の聴覚障害者情報提供施設と連携し、CS障害者専用放送統一機構に番組を提供しました。

エ 関係機関・団体との連携

聴覚障害者団体・通訳者団体・関係機関と年17回、通訳者派遣事業・相談事業や聴覚障害者福祉制度等に関する協議を行いました。

横浜市聴覚障害者協会の実施する横浜市手話通訳者登録試験(手話通訳者全国統一試験)の運営・審査等に協力しました。また、横浜市中途失聴・難聴者協会が実施する横浜市要約筆記者登録試験(要約筆記者全国統一試験)の運営等に協力しました。

オ 手話・筆記通訳者制度等の整備

昨年に引き続き、国方針を受けた横浜市要約筆記者派遣制度切り替え(25年度より)のため、移行研修・登録試験の実施、新派遣要綱規定事項の調整等を行いました。

カ 視察・実習対応

国立障害者リハビリテーションセンター学院、世田谷福祉専門学校、県立平塚ろう学校(中学部)、国際協力機構東京国際センター(ミャンマー研修生)、市立ろう特別支援学校(高等部)他に対応しました。

キ 行事等への出席

横浜市聴覚障害者の集い、神奈川県ろうあ者大会式典に出席した他、神奈川手話通訳問題研究集会第三分科会、講座「聞こえと補聴器」、横浜市聴覚障害者協会「日曜教室」他に参加し、発表等を行いました。

## 5 広報事業

横浜ラポールの利用を促進し、障害者の社会参加及び障害者とその他の市民相互の交流を図るため、次のとおり実施しました。

(1) 横浜ラポール広報誌・催し物案内の発行

月間催し物案内「ラポラポ」を発行し、市・区役所、障害児・者施設をはじめ、関係機関約500か所で配布しました。また視覚に障害のある方や、高齢者向けの読み上げ装置(スピーチオ)を総合受付脇に設置しました。

(2) 事業概要（年報）の発行（併せて視覚障害者用点字版の発行）

(3) 視察・見学者への施設案内

件数：34件（昨年度70件） 人数：590人（昨年度1,216人）

(4) インターネットによる広報

ホームページを作成し、広く施設情報を紹介しました。

## 6 その他

利用者へのサービス向上を図るため、利用者満足度調査を行いました。また各種研修・訓練等の実施により、施設の円滑な運営や安全管理を進めるとともに、職員の業務に対する意識の向上に努めました。

(1) 利用者満足度調査

施設運営上の課題等を把握し、利用者へのサービス向上を図るため、利用者満足度調査を昨年度に引き続き実施しました。

ア 実施方法 アンケート方式（無記名）

イ 実施期間 平成25年2月26日～3月18日

ウ 回収数 322通

エ 結果

1 利用者の方に障害はありますか？

- |       |      |
|-------|------|
| ① ある  | 207人 |
| ② ない  | 109人 |
| ③ 無回答 | 6人   |

2 利用者の方の年齢はいくつですか？

- |         |     |
|---------|-----|
| ① 10代以下 | 10人 |
| ② 20代   | 29人 |
| ③ 30代   | 36人 |
| ④ 40代   | 58人 |
| ⑤ 50代   | 44人 |
| ⑥ 60代   | 69人 |
| ⑦ 70代以上 | 49人 |
| ⑧ 無回答   | 27人 |

質問1 ラポール職員の対応についてうかがいます。

- |         |      |
|---------|------|
| ① とても満足 | 117人 |
| ② やや満足  | 83人  |
| ③ ふつう   | 87人  |
| ④ やや不満  | 10人  |
| ⑤ とても不満 | 3人   |
| ⑥ 無回答   | 22人  |

質問2 ラポール主催のスポーツ事業（教室・大会など）に参加したことがありますか？

- |       |      |
|-------|------|
| ① ある  | 139人 |
| ② ない  | 158人 |
| ③ 無回答 | 25人  |

質問2-2 「はい」の方にかがいます。参加されていかがでしたか。

- |         |     |
|---------|-----|
| ① とても満足 | 55人 |
| ② やや満足  | 42人 |
| ③ ふつう   | 36人 |
| ④ やや不満  | 6人  |
| ⑤ とても不満 | 0人  |

質問3 ラポール主催の文化事業（シアター事業・教室など）に参加したことがありますか？

- |       |      |
|-------|------|
| ① ある  | 94人  |
| ② ない  | 173人 |
| ③ 無回答 | 55人  |

質問3-2 「はい」の方にかがいます。参加されていかがでしたか。

- |         |     |
|---------|-----|
| ① とても満足 | 31人 |
| ② やや満足  | 38人 |
| ③ ふつう   | 21人 |
| ④ やや不満  | 2人  |
| ⑤ とても不満 | 0人  |
| ⑥ 無回答   | 2人  |

質問4 ラポール内の掃除についてうかがいます。

- |         |     |
|---------|-----|
| ① とても満足 | 94人 |
| ② やや満足  | 73人 |
| ③ ふつう   | 65人 |
| ④ やや不満  | 26人 |
| ⑤ とても不満 | 6人  |
| ⑥ 無回答   | 58人 |

質問5 ラポールの空調（暖房・冷房・ほこりなど）についてうかがいます。

- |         |     |
|---------|-----|
| ① とても満足 | 98人 |
| ② やや満足  | 79人 |
| ③ ふつう   | 89人 |
| ④ やや不満  | 14人 |

- ⑤ とても不満 0人  
 ⑥ 無回答 42人

(2) 職員研修

職員を対象に研修を実施しました。

<職員研修>

研 修 名	回数	参加者数
個人情報取扱い研修会	27回	82人
救急救命研修会 (7月25日午前・午後)	2回	51人
感染症対策研修会 (11月22日・24日)	2回	43人
メンタルヘルス研修会(2月12日)	1回	138人
通報訓練	12回	38人
救助訓練	12回	28人

(3) 防災対策

自衛消防組織の編成及び任務

自衛消防隊長 副隊長 (館長) — (副館長)	通報連絡班長：消防機関への連絡、館内放送 (管理・文化事業課長)
	初期消火班長：消火器・屋内消火栓による初期消火活動 (スポーツ事業課長：振興担当)
	避難誘導① 班長：館内利用者の避難誘導 (スポーツ事業課長：指導担当)
	避難誘導② 班長：館内利用者の避難誘導 (スポーツ事業課長：人材担当)
	避難誘導③ 班長：館内利用者の避難誘導 (聴覚障害支援課長)

<消防訓練の実施状況>

実 施 日	内 容
5月15日	横浜ラポールの地震発生を想定した防災訓練
11月6日	横浜ラポールの火災を想定した、横浜市総合リハビリテーションセンター・横浜ラポール・横浜市保健医療センター、3施設合同の防災訓練

(4) 運営委員会の開催

横浜ラポールの運営に障害者等利用者の意見を反映するため、関係者で構成する運

営委員会を開催しました。

開催状況 年1回(11月14日)

※年度当初に事業計画、事業報告を行うため、平成24年度は3月に行っていた運営委員会を平成25年6月開催となったことから、今年度は1回の開催となりました。

(5) 施設利用状況

横浜ラポールでは、障害者を優先的に施設の貸出を行いました。

ア 利用区分による利用状況

	利用者数		昨年度
個人利用数	181,505人	(100.0%)	188,374人
障害者	130,995人	(72.2%)	135,827人
介護人等	33,046人	(18.2%)	34,602人
一般	17,464人	(9.6%)	17,945人
団体利用数	262,749人 (7,970団体)	(100.0%)	262,248人 (8,311団体)
障害者	91,260人	(34.7%)	93,066人
介護人等	48,178人	(18.4%)	46,374人
一般	123,311人	(46.9%)	122,808人
利用者数 合計	444,254人(1日平均1,287.7人)		450,622人

イ 障害別による利用状況(個人利用の内訳)

内 訳	利用者数		昨年度
肢体不自由	78,047人	(59.6%)	83,203人
知的障害	26,748人	(20.4%)	26,593人
精神障害	8,094人	(6.2%)	6,964人
視覚障害	4,030人	(3.0%)	4,602人
内部機能障害	4,146人	(3.2%)	4,329人
重複障害	5,711人	(4.4%)	6,253人
聴覚障害	4,219人	(3.2%)	3,883人
合 計	130,995人	(100.0%)	135,827人

ウ 施設別区分による利用状況

	利 用 者 数	昨年度
ス ポ ー ツ 施 設	274,126 人 (100.0%)	281,599 人
プール	77,599 人 (28.3%)	78,207 人
メインアリーナ	66,006 人 (24.1%)	69,273 人
フィットネスルーム	58,493 人 (21.3%)	60,182 人
サブアリーナ	30,268 人 (11.0%)	30,977 人
屋外グラウンド	15,862 人 (5.9%)	16,177 人
ボウリングルーム	12,000 人 (4.3%)	12,224 人
地下グラウンド	8,719 人 (3.2%)	9,172 人
テニスコート	5,179 人 (1.9%)	5,387 人
文 化 施 設	170,128 人 (100.0%)	169,023 人
ラポールシアター	56,692 人 (33.3%)	49,932 人
大会議室	30,159 人 (17.7%)	32,043 人
ラポールボックス	25,565 人 (15.0%)	27,298 人
ラポール座	16,508 人 (9.7%)	15,190 人
和室	14,879 人 (8.8%)	16,149 人
創作工房	10,055 人 (5.9%)	10,046 人
小会議室	7,328 人 (4.3%)	8,442 人
おもちゃ図書館	8,853 人 (5.2%)	9,519 人
聴覚障害者情報提供施設 <sup>1)</sup>	89 人 (0.1%)	404 人

\*1) 聴覚障害者用字幕付きビデオ貸出人数